

第一回海外移住懸賞論文 講評

今回の論文募集には12名のご応募をいただき、海外移住の歴史を振り返るうえで貴重かつ興味深い内容が多く寄せられました。当事者ならではの豊富な経験に基づく海外移住に関する論評、独創的で新しい視点から海外移住や日系社会の歴史を表したもの、今日の多文化共生を考えるにあたって示唆深い異文化受容に至る過程をとりあげたもの、海外移住資料館の業務・問題意識を非常によくとらえたもの、さらに今後邦字紙を用いて研究を進めていく必要がある部分についてのご示唆もいただきました。

これらの応募作品を外部有識者および JICA 職員からなる審査委員会にて審査した結果、最優秀賞に長村裕佳子さんの「ブラジル日系二世エリートの立候補と投票をめぐる心情と論理 ―戦後の民主化における 1947 年選挙を事例に―」、優秀賞に月野楓子さんの「『らぶらた報知』の創刊と『在亜沖縄県人連合会』の設立」を選考しました¹⁾。また、日本人の海外移住の歴史に対する理解と関心を高めた内容の優れた随筆という観点から、乗松優さんの「『フジヤマのトビウオ』とブラジル日系コロニアの戦後」に対し、上記 2 作の秀逸な論文とは別に特別賞を設け、授与することとしました。

長村裕佳子さんの「ブラジル日系二世エリートの立候補と投票をめぐる心情と論理 ―戦後の民主化における1947年選挙を事例に―」は終戦直後1947年のブラジルにおける選挙運動について現地の新聞の観点から日系人のおかれた立場や日系社会における考え方をまとめた説得力のある論考であり、「邦字紙を活用した研究」という本論文テーマにきわめて合致していることなどが高く評価されました。月野楓子さんの「『らぶらた報知』の創刊と『在亜沖縄県人連合会』の設立」は、戦後アルゼンチンにおいて邦字新聞や芸能・スポーツが在亜沖縄県人を糾合する際に果たした役割を明確化した論文であり、海外移住における邦字紙の役割についての論理展開が高く評価されました。乗松優さんの「『フジヤマのトビウオ』とブラジル日系コロニアの戦後」は戦後ブラジルへの日本からのスポーツ団遠征を通じて、当時の日系社会の状況とスポーツ団が果たした役割を考察した興味深い内容であり、日本人の海外移住の歴史に対する理解と関心を高めることへの大きな貢献をされているという観点が認められました。

JICAでは今後も本懸賞論文を含む海外移住資料館の様々な活動を通して日本人の海外移住の歴史に対する理解と関心を高めることに努めてまいります。日本人の海外移住が、移住先国である中南米諸国の経済社会発展に果たした役割、また翻って日本社会にもたらした恩恵など、海外移住の歴史を学ぶことにより得られる、今日の日本社会が直面する多文化共生社会への示唆も含め、多くの皆様に伝えていきたいと思っています。

1) 最優秀賞は、募集要項にて掲示した正賞相当、優秀賞は、同副賞に相当します。